中原消防団
広報誌
第5号
発行 平成20年2月
題字 中田　隆

翔太（しょうた）

新春のごあいさつ

川崎市長　阿部孝夫

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

去る一月八日、恒例の川崎市中原地区消防出初式が御来賓多数の御臨席を仰ぎ、また、多くの市民の皆様の御参加をいただきながら盛大に挙行できましたことに心からお喜びを申し上げます。

本市の消防は、昭和二十三年三月七日の自治体消防の発足にあわせて設置され、今年で六十周年という節目を迎えるわけでありますが、この間、消防職員、消防団員をはじめ、消防関係諸団体の皆様方のたゆまぬ御努力により着実に充実強化され、市民の安全と安心の確保に大きな役割を果たしているところであり、あらためて皆様方に感謝を申し上げますとともに深く敬意を表する次第であります。

さて、昨年を振り返りますと、能登半島地震や新潟県中越沖地震をはじめ、相次いで日本列島を直撃した台風など、多くの自然災害が発生し、全国各地に大きな被害をもたらしましたが、その際、特に、新潟県中越沖地震に対しましては、本市からも、緊急消防援助隊の派遣をはじめ、水道施設の復旧や粗大ごみの処理、建物の危険度判定調査など、多くの職員を派遣して災害復旧の支援活動を行ったところであります。

また、本市におきましても、台風九号による多摩川の増水に伴い多くの人的、物的な被害が出たことは記憶に新しいところでありますが、近年、首都直下地震や東海地震等の切迫性も指摘されており、一方では、国際情勢の緊迫化に伴うテロ災害やNBC災害に対し、国民保護法に基づく具体的な対応が進められており、市民の皆様の安全・安心に対する関心と消防に寄せる期待はますます高まっております。

市民の生命や財産が保障され、安心して生活ができることは社会生活の基本でありますことから、本市におきましては、「新総合計画・川崎再生フロンティアプラン」におきまして、基本政策の一つに「安全で快適に暮らすまちづくり」を掲げ、暮らしの安全を守り、災害や危機に備えるため、救急需要対策と高度な救急救助体制の整備、消防署所の適正配置と防災拠点の整備など、総合的な防災体制の整備拡充を積極的に推進しているところであります。

中原区におきましては、念願でありました新中原消防署もこの三月には完成の予定であり、地域の防災力が一段と向上するものと期待しておりますが、消防職員、消防団員をはじめ、消防関係諸団体の皆様方には、今後とも、地域の安全を守るため、一致協力した取り組みを進めていただくようお願いいたします。

結びになりますが、新しく迎えた平成二十年が、市民の皆様にとって安全で安心に暮らせる災害の無い豊かな年となりますよう心から御祈念いたしまして挨拶といたします。

"年頭によせて"

中原消防団長　大谷正勝

新年おめでとうございます。

新たな年を迎えるにあたり、防災に係わっている者として、一言ご挨拶申し上げます。

さて、中原区内の昨年平成十九年度に於いての火災発生件数が、前年度に比べて大きく半数以下に減少致しました。この結果は、多くの地域の方々の防災意識の高揚の賜と、大変喜ばしいことと思います。今年も、皆さんと私ども防災関係機関が一体となり、この記録を維持する様に努力したいと思います。

他方、今後の大きな課題は、数年来、発生が危惧されている東海地震をはじめとする大きな地震災害に対する問題です。これらの災害が発生した場合に、人的な被害を最小限にくい止め、同時に発生する多くの建物の火災及び倒壊に対して、いかに対応するかが、防災機関の大きな課題です。

この様な突発的な事態が発生した場合には現在の消防関係機関だけでの対応には、限界があると思われます。そのためには、地域の自主防災組織をはじめ町会自治会の各組織の協力が是非とも必要です。これらの多くの各組織の協力体制を確立することが、被害の拡大を阻止する大きな原動力になると確信致します。

現在、中原区の人口はすでに、二十二万人を超えて、快適な素晴らしい街づくりが進んでいます。私たちの「郷土中原」を未来永劫に守りそして発展させいくためには、我々全ての人々が、決して防災面での諸問題を回避することなく、それらの課題を直視して、正面から取組む姿勢が今こそ、必要であると思います。

今年の更なる躍進を期待して

中原消防署長　本田義雄

希望にあふれる平成二十年の新春を迎え、心よりお喜びを申し上げます。

年頭にあたり、団員各位には、平素の献身的なご活躍とご苦労に対しまして、深く感謝申し上げます。

新春恒例であります中原地区消防出初式の開催にあたりましては、皆様のご協力を頂きまして、誠に素晴らしい式典とすることができました。臨席された区民の皆様に、中原消防団の威信と存在意義を、理解して頂けたことと思います。

さて、昨年を顧みますと、中原区内の火災件数は34件で、対前年比44件の減となりました。これは、昭和二十三年に自治体消防が発足以来、この六十年の歴史の中で最少の件数であります。これも偏に、中原消防署・中原消防団、そして各消防協力団体が一致協力して、防火・防災思想の普及・啓発に力を注いで頂いた成果であると確信しております。本当に有難うございました。

中原区は今、目覚ましく再開発が進められ、先端技術の集積や文化、余暇、そして住環境の整備を図ることにより、調和のとれた新しい都市空間を築こうとしております。

このような中、中原消防署は、今年四月に新庁舎に移転致します。職員一同、気持ちを新たにして、今年も質の高いスピードのある行政を心掛け、昨年以上に災害の少ない安全で豊かな中原区を目指して、更なる努力をいたします。団員各位におかれましても、崇高な使命と郷土愛に燃えて、22万中原区民の負託に応えられますよう決意を新たにして、また今年一年間、地域安寧のために、頑張って頂きたいと存じます。

最後に、大谷団長を中心として、中原消防団がますます躍進されることを期待致しまして、年頭の挨拶と致します。

平成20年4月 中原消防署新庁舎

綱島街道沿い
新丸子東三丁目
へ移転

今年四月に中原消防署庁舎が防災拠点としての機能向上を図るため、小杉再開発地区へ移転します。

地上21階建、消防署は1～4階まで、5階以上はホテルとなります。

現庁舎（小杉町三―二六）は昭和三十六年四月に改築され、47年間の永きにわたり消防関係者はもとより多くの地域住民に愛されてきました。

→現庁舎
47年間
お疲れ様でした。

女性団員奮闘中！

私達、女性消防団員は主婦あり・母親でもあり・仕事を持ちながら、各所属分団の活動を男性団員と一緒に活動しています。各所属分団活動の他に、女性消防団員研修会・全国女性団員活性化大会・火災予防運動時、車両にて広報活動・中原区民祭での消防団ＰＲ活動・応急救命講習会の手伝い・ミーティング等の中原消防団員としての活動も行っています。本団、庶務部長を中心として各所属器具置場を借りてのミーティングは女性団員の向上をはかるために、研修会などの報告や勉強会、今後の活動について話合っています。

車両にて防火広報活動

中原女性消防団員としての活動はまだ始まったばかりですが、これからも女性団員だからこそ出来る活動をめざして、ガンバって行きますので、よろしくお願いいたします。

おびしゃ

各地の神社で注連縄の奉納を済ませたと思いますが、ここ中丸子神明大神でも三五〇年の伝統行事である「おびしゃ」といわれる〆より祭が行なわれた。おびしゃ保存会の会員が神社に集り、分業で三時間ほどかけ、稲わらで直径二〇㌢、長さ六㍍ほどのしめ縄を三本、それより小ぶりのものを三本つくる。それを古老の指導で各々三本縒り合わせて二本の注連縄をつくる。

境内では去年の注連縄や松飾りが燃やされ、多勢の見物客に暖の接待をする。出来上った二本の注連縄は長はしごに載せられ、宮司が村内の平穏を祈願した後、皆で担いで境内を三周まわる。その後社殿の正面に飾りつけ、もう一本は御神木に巻きつける。

ここでも会員には消防団OBや現役が十数名参加しており、超OBは焚き火にあたりながらワラをくべたり、芋を焼いたり（これが旨い！）、火の後始末もする。奉納後は保存会の総会を兼ねた祝宴が行われ、「多摩川側に捩れ」「南武線側に縒れ」とか「昔は村中を担ぎまわったもんだ」とか古老の話も出て盛り上げる。こうして、初詣、元旦祭、おびしゃ、出初式と今年も始まった。

ガンバレ!! 玉川分団（T・Y）

消防と共に三十年

―記者とH記者の新春の会話

30年前

現在

H　Iさん！佐々木警護部長（以下佐々木さん）って若い頃相当モテたんですって？

I　それはそれは大変だったみたいだよ！今でもモテるんだけどね！

H　そうなんですか…。そこで入団当初写真を極秘入手しました。（冗談です、ちゃんと許可とってます）

I　昭和五十二年入団の頃の写真だよ。

H　うぁ～色男ですね～。昭和五十二年って生まれてた??

H　生まれてましたけど六歳です。

I　でもね、ただ色男だけじゃないんだよ。分団長の時もリーダーシップを発揮して、責任感も強くてね。

H　それじゃモテるのも当然ですね。今現在の写真を見ても渋い年のとりかたですよね。

I　三十年って長いよね。仕事と両立させてだから大変だよね。君は消防団何年？

H　今年で十年目ですけど。

I　まだ先は長いけど消防団をがんばってね！佐々木さんみたいに良い顔になってね!!

教訓　光陰矢の如し

決意新たに

中原分団部長　佐久間　秀　行

一番左が佐久間部長

私は、昭和五十九年十月に入団しましたが、その頃に比べて現在、団員数が大変不足しています。そこで、団員の分団活動に対する率直な意見や疑問に耳を傾け、幹部団員がその一つ一つを解明していくよう取り組むことが必要だと思います。又、昨年八月に仲間の井出班長が病気で亡くなりました。大変悲しいことですが、彼の消防団に対する熱意や愛情を継承して、よりよい分団活動を推進すべく中原分団は、訓練を実施しています。具体的には、毎月の器具点検日には、実際の火災を想定して、団員への明確な発生場所の連絡、車両出動と走行中のアナウンス、現場到着後の情報収集、幹部の的確な指揮命令、団員の配置、ポンプ運用、消火方法等を行っています。このような訓練を行うことによって、仲間意識、義務感、達成感を満たし、自分達の消防団に誇りをもち、後継者が育っていくのではと考えています。これかも地域の人々から、より一層信頼される消防団を目指して、真面目に楽しく活動していきたいと思います。

消防豆知識　纏（まとい）と町火消

纏は戦国時代、戦場で使われた記標で馬側に立て総大将の所在を示すものであった。江戸時代に入りそれを模して町火消の標識として使われるようになる。纏の頭部を〈だし〉といい、組の名を記号でいれた。

町火消は明暦の大火の翌年、1658年に中橋（なかばし）から京橋までの23町が人足を雇ったことに始まる。いろは47組に編成され、消防夫は各町で抱えた鳶人足で組ごとに市中民家の消防にあたった。江戸っ子の典型として勢をはり、定火消や大名火消の縄張りを侵すこともあった。

編集後記

中原消防団広報誌「翔太」第5号をお届けします。発行にあたり、ご協力に深く感謝致します。

発行責任者　大谷　正勝
編集　中原消防団広報部
広報部長　小島　光儀
中原分団　三堀　武
　　野口　俊明
大戸分団　井上　武
住吉分団　鹿島　秀樹
　　横山　芳春
玉川分団　田口　眞弓
　　横山　哲夫
丸子分団　若島　稔
　　石井　学
　　畑　昭仁

団員募集　お問い合わせ先：中原消防団本団（中原消防署内）TEL 044-733-0119

平成20年 中原地区消防出初式

平成20年１月８日
等々力緑地催物広場

統一標語「忘れるな　過去の災害　得た教訓」

▶消防部隊集合しての開式

◀表彰

▲ 川崎古式纏保存会（五番組）による梯子乗り

幼年消防クラブの演技 ▶
（平間幼稚園）

▼ 中田8代団長手作りの干支のかぶり物

川崎市消防音楽隊と
▼ カラーガード隊の演技

◀消防車両部隊

一斉放水

左より 本田署長、阿部市長、大谷団長

消防部隊のトリは消防ヘリそよかぜ1号・2号

写真撮影：若島　稔